



# 好きな道を歩める子どもを増やしたい。

リベルタこどもプロジェクト — 倉吉市 —

こども食堂をきっかけにはじまった「リベルタこどもプロジェクト」の活動は、今、ALL ENGLISH 授業を無料で提供する試みへと発展しています。

近所のお宅へカーを配達。初めてこども食堂のボランティアに参加した、真ん中左から倉吉市立東中学校の増田莉梨さん、永田梨乃さん。明倫小学校5年の桑野七花さん

## こども食堂「好きな道」

「近くの校舎跡あたりでした。学校に行けず昼にたむろしている子たちを見つけて。土日でした」、そう話すのは大曲圭子さん。こども食堂「好きな道」を倉吉市ではじめたのは3年前。「好きな道」という食堂名は息子さんの言葉から名づけました。「幼いころ、次男が『好きな道、ぼくの道』と言いながら遠回りして下校してきたことがあって。食堂名を『好きな道』にしたら、食堂行こう、が『好きな道』行こう、になるでしょ。いいなと思って」と笑います。

こども食堂は主に土日にオープン。ベンチを出せばそこが食堂です。メニューは、牛すじカレーやフルーツサンドなど大曲さんが腕をふるいます。子どもは無料。300円以上の寄付で大人も利用できるとあって、近所の人もテイクアウト目的で多く訪れます。ときにはお米や野菜、餅やお菓子などを配るフードパントリーもおこなうと言います。

## 授業形式で学習支援ができないか

「こども食堂をやるんだったら学習支援やフードパントリーもしたくて、プロジェクトとして活動することに決めました。名前は『リベルタこどもプロジェクト』と大曲さん。

元々、知り合いの子に学習支援をしていたのがきっかけで、高校受験に不安をかかえる子どもたちの存在を知った大曲さんは、授業形式で学習支援ができたらと思いはじめます。「学校の授業形式って基礎から応用まで段階的に学べて、とていいんですよ。とくに基礎が大事。理解が進まない子は基礎も習得せずに終わってしまいます。でも、あきらめなくてもいいよ、初めからやればいいんだよ、大丈夫と伝える場所がほしくて」。そこで鳥取大学の学生を募集すると、すぐに応募が。学生から授業をしたいと手が挙がり、授業形式での無料学習会が実現しました\*。

\*無料学習会は、鳥取県社会福祉協議会の「先駆的・開拓的ボランティア活動助成事業補助金」による支援を受けて実施。

リベルタこどもプロジェクト

イタリア語で“自由”を意味する「リベルタ」。子どもたちが自分らしく、好きな道を歩めるように— そんな願いをこめて名づけました。こども食堂・学習支援・英語教育などを通して子どもたちを応援しています。





## 「子どもらしく過ごせる場所をつくりたい」

おおまがり けいこ  
大曲 圭子さん

リベルタこどもプロジェクト代表

プロジェクトで、学習支援やフードパントリー、英語教育など子どもたちが、のびのびと力を発揮して挑戦できる場所づくりを続けています。子どもたちを想う篤志家、企業の方々のご支援があってこそこの活動です。いつも、ありがとうございます。

### プロジェクトを支える仲間たち



Core Member

おおまがり よしき  
大曲 佳樹さん

ALL ENGLISH 教室 授業監修

倉吉市出身です。関西で塾長として英語指導や入試対策などに携わっています。洋画や洋楽が好きで英語に魅了されました。英語を通して広がった世界との出会いを、次は子どもたちへ。

【略歴】大学在学中に JASSO 海外留学奨学金を受けて留学。愛知県の公立中学校で6年間英語教育に携わる。TOEIC スコア 900 点以上。



ふじもと じゅんすけ  
藤本 隼輔さん

鳥取大学3年生

広島出身です。無料学習塾で先生をしています。人と接するのが不得意な自分を変えてくれたのが英語。得意な英語を活かして ALL ENGLISH 教室の授業を担当します。高校のときに受けたような本格的な授業を倉吉の子どもたちにも受けてもらいたいです。ぼくにとっても挑戦です！



コウ ガンショウ  
黄 岩松さん

県内企業勤務

中国の四川省出身です。仕事では主に県内の地域創生と採用支援に携わっています。リベルタこどもプロジェクトには ALL ENGLISH 教室の企画段階から参画しています。倉吉にしながら高度な英語教育を受けられる、そんな「教育インフラ」を整えたいと考えています。



じくはら まさかず  
竺原 正和さん

バドミントンクラブ UNITE 代表

娘がバドミントンクラブがないというので作ったクラブは、北栄町や鳥取市青谷町の子も通う大所帯になりました。元々ぼくはバドミントンの経験はなかったのですが(笑)。子どもたちには文武両道に励んでほしいです。将来、大切な経験を積んだと気づくと思うんです。

### 年の近い“先生”の授業に子どもたちは夢中

現役学生による授業は大好評。「中国の先生がおもしろかった」、「金属の中を電流が通る様子を初めて知った」など、子どもたちはうれしそうでした。「年の近いお兄さんたちの授業が子どもたちにはとても新鮮で」と大曲さん。帰りがけに“先生”から「ぼくの力が1ミリでも、なにかの役に立てば」と声があったことは忘れられないと話します。

無料学習会には様々な子が来ます。貪欲に学びたい子、学校に行けなくなった子。「塾に行くお金も時間もないという外国籍の子もいました。成績がとても不安ということでしたけど、最後には『高校に合格した』とお母さんから初めて片言の日本語で電話があった」と、大曲さんの声がふるえます。

### そのボランティア活動、証明します！

こども食堂を利用する子のなかには、プロジェクトを手伝ってくれる子たちもいます。手伝ってくれたときには「ボランティア証明書」を発行。17枚の証明書を学校に提出し、就職に役立ったという高校生の声も届きました。「ガクチカ（学生時代に力を入れたことの略称）として就職や進学の際などに評価される今、証明書をもらうにはどうしたらいいかという問い合わせも増えています」と大曲さん。無料学習会の先生になってくれた大学生にも発行しています。

### 共鳴、仲間があつまる

県のタスクフォース課から紹介されたのは県内の企業で働く黄岩松さん。活動に興味を持ち関わってくれようになりました。AIを駆使する黄さん。最初こそ「AIってどうなの」と思った大曲さんでしたが、



／とある日の／  
**こども食堂「好きな道」**

部活のあとで立ち寄る子も。ベンチや椅子、棚などは「コペルコ地域社会貢献基金」(2024年)の支援で購入



“シビック・プライドを育む”、“地域力を高める”など思いもつかなかった活動の価値を示すAIに、そんな価値もあったのかと新鮮な驚きを感じました。活動のチラシは、バドミントンクラブ「UNITE」代表の笠原正和さんがつくりまます。地域にかかわる子を増やしたい思いが共鳴し、協働を申し込んでくれました。

**お母さんの笑顔がふえますように**

無料学習会では、来てくれた子に寄付米の無料配布をしています。お米は、えんたく\*から支援を受けたもの。「課題があるとすれば、地域の理解が得られない部分があること。特にこども食堂です。ブランド服を着ていても食事に困る子どもたちがいる。こうした外見だけでは気づきにくい貧困があり、支援の必要な子どもを見つけにくくなっている」と大曲さんは言います。

大曲さん自身、両親の介護をしながら子育てをした経験者。こども食堂はお母さんたちのため、実はそう考えています。「こども食堂で『これでお母さんを昼まで寝かしてあげられるね』という姉弟の会話を聞いて胸がいっぱいになりました」と続けます。心に余裕が生まれた親世代が笑顔になり、それが親子の安心につながればと願います。

鳥大生が活躍!

**無料学習会**

授業は近くの地区公民館を借りて行う



永澤壮空先生



レイナ・サンティアゴ先生



前田大希先生

**新しい道、ALL ENGLISH教室**

無料学習会は今、新しい道を開拓中。それは先生も生徒もすべて英語のみで授業をする、ALL ENGLISH教室の試みです。「私が学生時代に受けたかったことでもあって。都会でしか受けられないような授業をここでしてみたい」と大曲さん。「好きな道って想い描いたときに自分だけではなくて、みんなの笑顔が浮かぶような道を歩みたい。途中、道と道が繋がればいい。そんな好きな道を子どもたちにも歩んでほしい」と計画を笑顔で語ります。

\*とっとり子どもの居場所ネットワーク“えんたく”

／とある日の／  
 いちごパフェ



**Contact**

リベルタこどもプロジェクト  
 代表 大曲 圭子  
 TEL 090-3615-0039



活動の様子は  
 こちらから